

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 158
 - 2 マルチスタイルベイ機器を差し替える 160
 - 3 フロッピーディスクドライブを接続する 163
 - 4 PC カードを接続する 170
 - 5 USB 対応機器を接続する 173
 - 6 テレビを接続する 175
 - 7 CRT ディスプレイを接続する 180
 - 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 181
 - 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する 183
 - 10 その他の機器を接続する 186
 - 11 メモリを増設する 190

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- マウス
- PC カード
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- スキャナ
- デジタルカメラ
- モデム（本製品では内蔵）
- プリンタ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- 増設メモリ

* 増設の際は、メモリ購入前に「本章 11 メモリを増設する」をご覧ください。

 **参照** 周辺機器の接続場所について「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

参照 → 周辺機器の接続場所について「1章 1 各部の名前」

1 ドライバをインストールする

ほとんどの周辺機器は、はじめて使用するときにはドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 マルチスタイルベイ機器を差し替える

1) マルチスタイルベイ機器について

購入時は、マルチスタイルベイに、ウェイトセーバが取り付けられています。マルチスタイルベイは、次の機器のいずれか1つに差し替えることができます。各マルチスタイルベイ機器の詳細については、『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

- DVD マルチドライブ (別売り)
DVD マルチドライブをもう1台使用することができます。
- 60GB ハードディスクユニット (別売り)
ハードディスク容量を増設できます。
- ブリッジメディアスロット (別売り)
スマートメディア、メモリースティック、コンパクトフラッシュを使用することができます。
- TV チューナ (別売り)
TV チューナ同梱モデルには、別売りのTV チューナと同じものが同梱されています。テレビアンテナやビデオデッキと接続し、テレビ番組をパソコン画面に表示したり、録画することができます。

注意

- マルチスタイルベイにはマルチスタイルベイ機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
マルチスタイルベイの内部に異物やほこりが入ると、パソコン本体の火災・感電・故障の原因となります。また、内部に触れると感電のおそれがあります。
- マルチスタイルベイ機器には長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。
マルチスタイルベイ機器を取りはずす際にマルチスタイルベイ機器が熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからマルチスタイルベイ機器を取りはずしてください。

2) マルチスタイルベイ機器の差し替え

お願い

- 取りはずすときは、マルチスタイルベイ  LED が消灯していることを確認してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

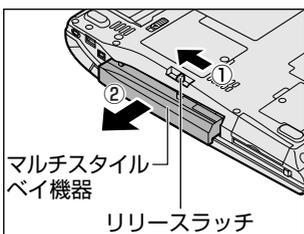
4 マルチスタイルベイ用のネジがロック解除の位置（奥側）になっていることを確認する

ロックの位置（手前側）になっている場合は、ロック解除の位置に付け替えてください。

参照▶ マルチスタイルベイ機器のロック

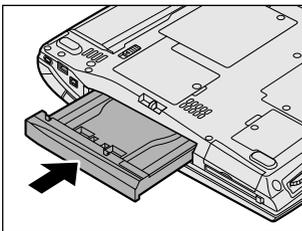
「本項 マルチスタイルベイ機器のロック」

5 マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドし①、マルチスタイルベイ機器を引き出す②



マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドさせた状態で、機器をしっかりとつかんで水平に引き出してください。

6 マルチスタイルベイに取り付ける機器を裏返し、しっかり差し込む



カチッと音がして、マルチスタイルベイ・リリースラッチがかかるまで差し込んでください。

7 必要であればマルチスタイルベイ機器をロックする

メモ

通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）からマルチスタイルベイ機器の使用を停止し、取りはずすこともできます。詳しくは『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

マルチスタイルベイ機器のロック

マルチスタイルベイ機器は、ネジでロックすることができます。購入時、ネジはロック解除の位置（奥側）にとめられています。必要に応じてネジをロックの位置（手前側）に付け替えてください。

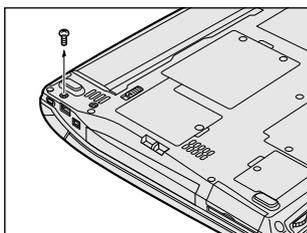
⚠ 警告

- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

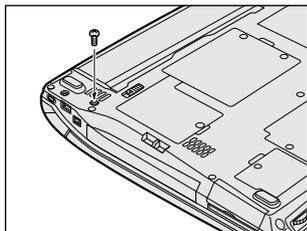
お願い

- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。

1 パソコン本体を裏返し、ネジをマルチスタイルベイのロック解除の位置（奥側）からはずす



2 手順1ではずしたネジをマルチスタイルベイのロック位置（手前側）にとめる



3 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱の USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

⚠ 注意

- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDDのLEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

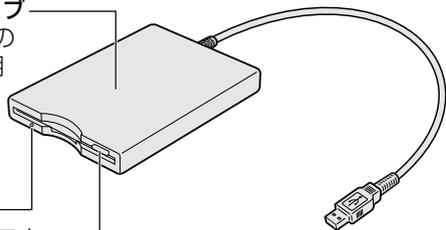
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上に物を置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け/取りはずしについては、「本章 5 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ 操作集

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。フロッピーディスクから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【常にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする
- ③ [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

【一時的にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① **(F12)** キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- ② **(←)** または **(→)** キーで、フロッピーディスクのアイコン  を選択し、**(Enter)** キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し/書き込み	フォーマット
2DDタイプ	720KB	可	不可
2HDタイプ	1.2MB	可	不可
2HDタイプ	1.44MB	可	可

 参照 → フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

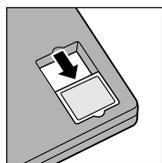
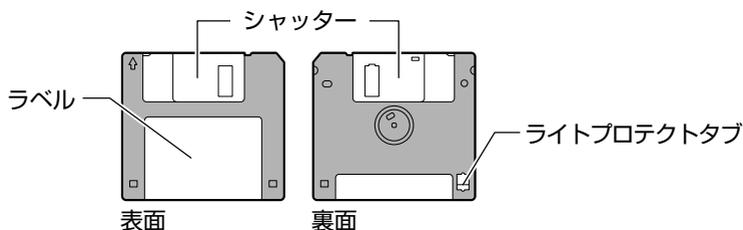
2 [3.5インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

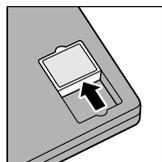
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることで、す。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3  3.5 インチ FD (A:) をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面で【閉じる】ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当たったり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

4 PCカードを接続する

目的に合わせた^{ピシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- ^{スキャー}SCSI カード
- 無線 LAN カード
 - * 無線 LAN モデルには同様の機能が搭載されています。
- 携帯電話用データ通信カード など

1 PCカードを使う前に

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

注意

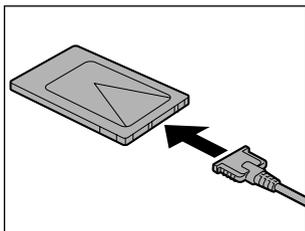
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的の影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

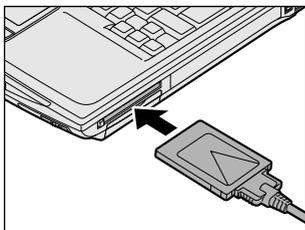
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているかシステムのデバイスマネージャなどで確認してください。

2 取りはずし

お願い

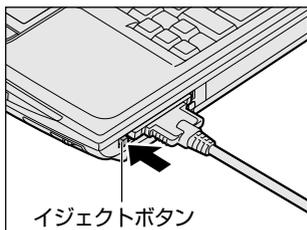
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

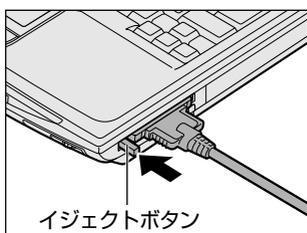
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



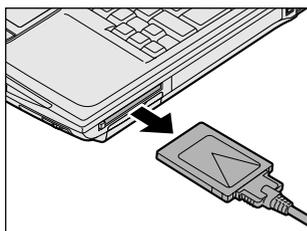
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くなっていないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

5 USB 対応機器を接続する

コンピューター
USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

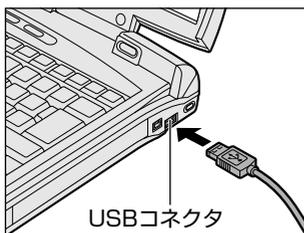
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直さず、パソコンを再起動してください。

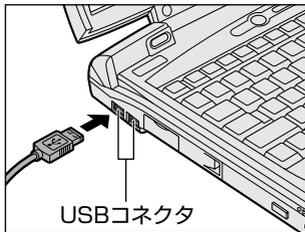
1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む 【右側面】



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



- 2 USBケーブルのもう一方のプラグをUSB対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずすUSB対応機器)] を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

6 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

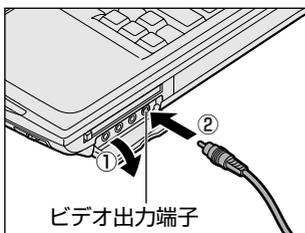
同梱のビデオケーブルを使用してください。同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使用すると、正しく表示されない場合があります。

本製品のビデオ出力端子は、LINE OUT 端子を兼ねています。

参照 → LINE OUT 端子について 「本章 10-③ オーディオ機器」

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

2 テレビに表示する

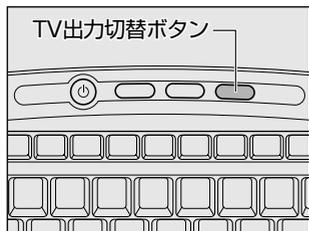
テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法1—TV出力切替ボタンを使う】

TV出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度TV出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法2—リモコンを使う】

リモコンの出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法3—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [nView ディスプレイモード] タブで次のいずれかに設定する



● 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ もう 1 度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

● テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

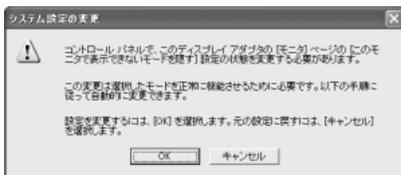
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法4ー (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒間押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

▶ 参照 → CRTディスプレイについて「本章 7 CRTディスプレイを接続する」

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows のログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、**(Fn) + (F5)** キーで表示装置を切り替えられません。

▶ 参照 → ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

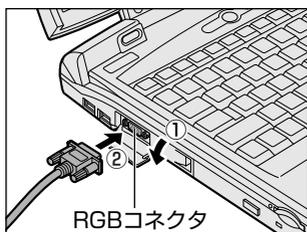
- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

7 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 左側面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 3」や「方法 4」を参考にしてください。「方法 3」を参考にする場合は、[nView ディスプレイモード] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

▶ 参照 ▶ テレビ表示について「本章 6-2 テレビに表示する」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプルイーチサンキョーコン
i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

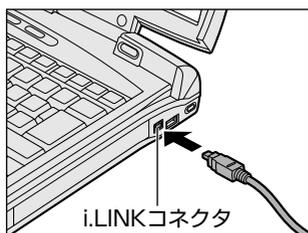
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

* 機種によっては接続できません。

9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

 参照 → ヘッドホン出力端子への接続について 「本章 10-② ヘッドホン」

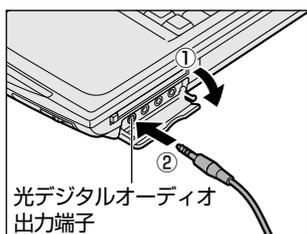
お願い 操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1 回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- Windows を起動せずにオーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで音楽CDを操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。
その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から光データは出力されません。
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。

SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできますが、録音したMDからさらに他のMDに録音することはできません。

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む②



プラグの形状を確認して差し込んでください。

- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンポなど）への録音方法について説明します。

- 1 光デジタル対応機器の電源を入れる
- 2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする
詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。
- 3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどのプレーヤで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル（AVI / MPG）、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。

シンクロ録音機能を使用する場合は、[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで [オン (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

10 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

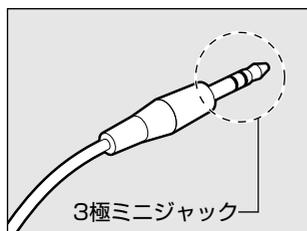
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

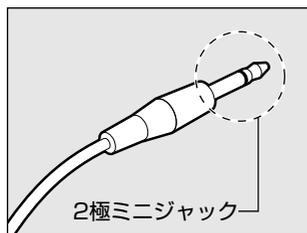
参照 → サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



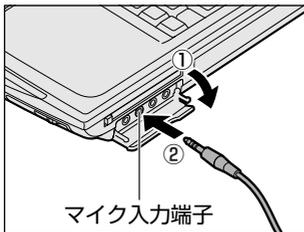
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

参照 → アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む②



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。

マスタ音量は、次のように操作して起動します。

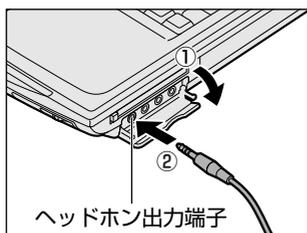
- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 光デジタルオーディオ出力端子について
「本章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

1 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む②



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

3 オーディオ機器

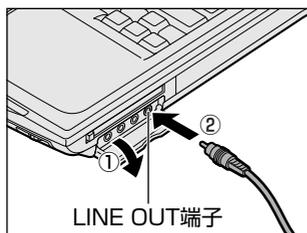
LINE OUT 端子と LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。
本製品の LINE OUT 端子は、ビデオ出力端子を兼ねています。

参照▶▶ ビデオ出力端子について 「本章 6 テレビを接続する」

1 LINE OUT 端子への接続

同梱のビデオケーブルをオーディオケーブルとして使用してください。
同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使った場合、正常に信号が出力されません。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

取りはずすときは、LINE OUT 端子からビデオケーブルのプラグを引き抜きます。

- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）をオーディオ機器の LINE OUT 端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

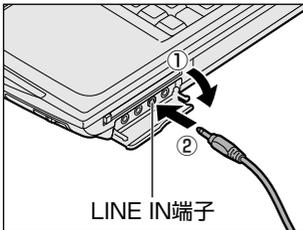
ビデオケーブルの映像端子（黄）は使用しません。

2 LINE IN端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体のLINE IN端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のLINE OUT端子に差し込む

11 メモリを増設する

本製品には2つの増設メモリスロット（スロット0とスロット1）があり、増設メモリスロット1つにつき512MBまでの増設メモリを取り付けることができます。本製品には、256MBのメモリがスロット0にのみ取り付けられている256MBのモデルと、スロット0、スロット1両方に取り付けられている512MBのモデルがあります。

	スロット0	スロット1
256MBモデル	あり	空き
512MBモデル	あり	あり

別売りの増設メモリを空いているスロットに取り付けたり、購入時のメモリと交換することで容量を増やすことができます。メモリを増設する際は、「東芝PC診断ツール」でお使いのパソコンがどちらのモデルかを確認のうえ、適切なメモリを取り付けてください。

 「東芝PC診断ツール」について「本節 3 メモリ容量の確認」

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分だけではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

【エラーメッセージについて】

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、モードパネルにメッセージが表示されます。また、パソコンは起動しません。

エラーメッセージ

モードパネルに次のように表示されます。左側がスロット0のエラーメッセージ、右側がスロット1のエラーメッセージです。

MEM0

Error

MEM1

Error

1 取り付け

512MB モデルの場合は、メモリをあらかじめ交換するスロットから取りはずしておいてください。

参照 → 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

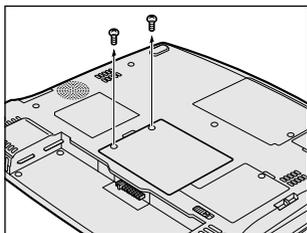
参照 → 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

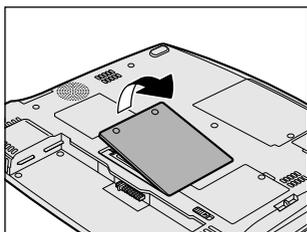
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 → バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

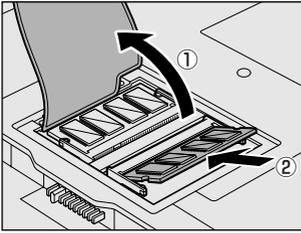
4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす



5 増設メモリカバーをはずす



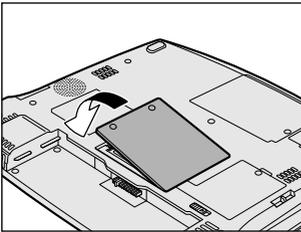
6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめくって①、増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに差し込む②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

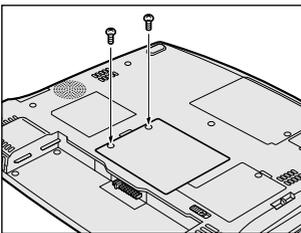
7 コネクタ部を支点として、メモリを下に押す

8 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

9 手順4ではずしたネジ2本でとめる



10 バッテリーパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ▶ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

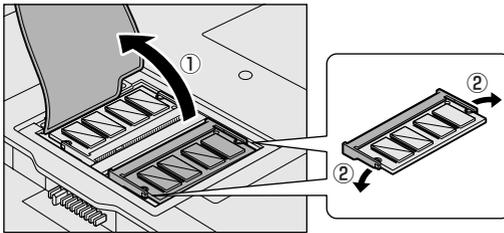
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモ리카バーのネジ 2 本をはずす

5 増設メモ리카バーをはずす

6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめくって①、フックを解除する②



熱くないことを確認してから行ってください。

7 増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

8 増設メモ리카バーをはめる

増設メモ리카バーが浮いていないことを確認してください。

9 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる

10 バッテリーパックを取り付ける

参照▶ バッテリーパックの取り付け「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する



「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 198
 - 2 省電力の設定をする 206
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 212

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

警告

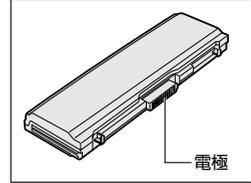
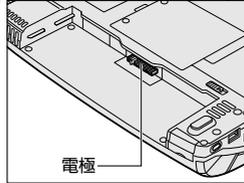
- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS025)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

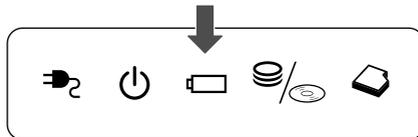


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery LEDは次の状態を示しています。

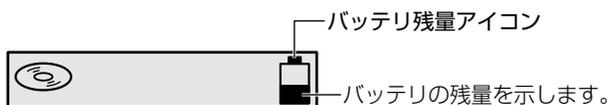
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリー異常

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

参照 → バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」

2 モードパネルで確認する

モードパネルに表示されたバッテリー残量アイコンで、バッテリーの状態を確認できます。



バッテリー充電量の状態にあわせて、バッテリー残量アイコンは5段階に表示が変わります。

バッテリー残量アイコンが  のときは、フル充電状態です。

バッテリー残量アイコンが  のときは、すぐに充電が必要な状態です。

バッテリー残量アイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残量と異なることがあります。

3 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



▶ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LED や【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

▶ 再充電の方法について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が点灯)	10 時間以上
電源 OFF (Power  LED が消灯)	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery への LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery への LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery への LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 6.2 時間以上
電源 OFF	約 3.0 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【 使用できる時間 】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

UXGA (1600 × 1200) モデルの場合	SXGA + (1400 × 1050) モデルの場合
約 3.0 時間	約 3.5 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約 18 日間

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery □ LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ▶ LED が緑色に点灯して Battery □ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery □ LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery □ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ▶ LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 バッテリーを節約する 】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする **参照**▶ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照▶ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する **参照**▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

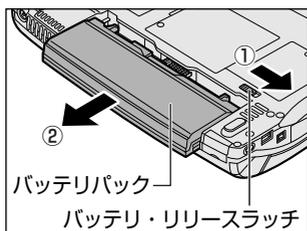
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

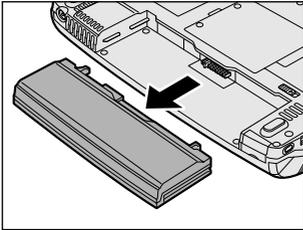
3 ディ스플레이を閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを引く②

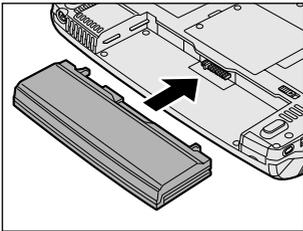


ゆっくり引いてください。

5 バッテリーパックを取り出す

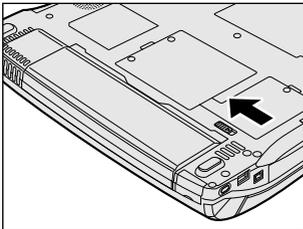


6 バッテリーパックを静かに差し込む



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

7 バッテリーパックを固定する



バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 東芝省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 東芝省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。
購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリー使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている6つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

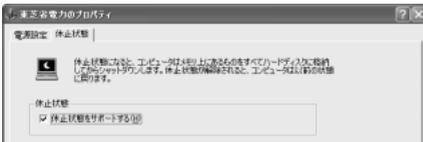
[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

[タスクバーに Intel(R) SpeedStep(TM) Technology の状態を表示する] をチェックする () と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコン () が通知領域に表示されます。CPU 周波数アイコンをクリックすると、CPU 周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。

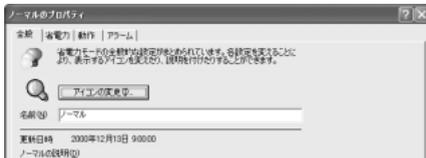


参照 → 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。HDD/CD-ROM  LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【入力を求める】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

自動的にスタンバイ・休止状態が実行される時

購入時の設定のまま、ACアダプタを電源に接続して30分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。

この場合、スタンバイからの復帰時に、ネットワーク関係のアプリケーションが正常に動作しないことがあります。その場合は、もう1度ネットワークにログインし直してください。「東芝省電力ユーティリティ」でスタンバイを無効に設定しておく、自動的にスタンバイが実行されることはありません。

ただし、設定を変更すると国際エネルギースタープログラム規格の基準を満たせなくなります。

また、CPUへの負荷が高いスクリーンセーバが稼動しているときやシステムの状態によっては、設定した時間どおりにスタンバイまたは休止状態に移行しない場合があります。

【電源オフ】

Windowsを終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windowsのパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindowsパスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

【アラーム】タブは【電源設定】タブで【バッテリーを使用中】に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者アカウントのみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する場合
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 【東芝省電力ユーティリティ】を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。また、「東芝モバイルエクステンション」の「ウォームドocking／アンドockingをサポートする」のチェックをはずした場合は、マルチスタイルベイ機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする

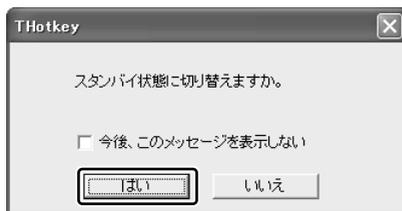


メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

【方法2ー (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [[はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [[はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1— [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

【方法2— (Fn) + (F4)キーを使う】

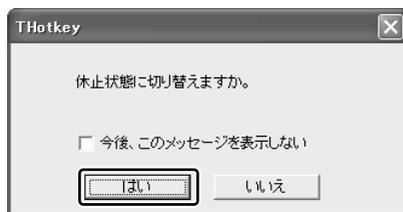
1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4)キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power  LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る / パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る (電源オフ)、またはスタンバイ / 休止状態にすることができます。

休止状態を選択するには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

購入時は [電源オフ] に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする

- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [何もしない] [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

設定した状態へ移行します。

手順1の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

購入時は [休止状態] に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 218
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 220
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 221

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 参照 複数のユーザで使用する場合について

『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
ネットワークデバイス スイッチ		○		○*2
東芝コントロール (メール着信機能)	○		○	
東芝コントロール (ボタン機能)		○	○	
東芝コントロール (モードパネル)		○		
Drag'n Drop CD	○		○*3	○
携快電話 7	○			○
家庭の医学	○		○	○
LaLaVoice	○*4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		
MotionDV STUDIO		○		○*2
DVDfunSTUDIO		○		
DVD-MovieAlbum		○		
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○*2
駅すばあと	○		○	
ekitanExpress Online		○		○*2
筆ぐるめ		○		○*2

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
Liquid View	○		○	○
Norton Internet Security	○		○	○
東芝 PC 診断ツール		○		○ *2
東芝 HW セットアップ	○			— *5
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○ *2
いきなりインターネット (infoPepper)		○ *6		○ *2
AOL	○			○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイアルアップ スターターキット	○		○ *6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○
かるがるネット		○		

* 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。

* 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータの管理者のみです。

* 3 DVD-R、CD-R などへの書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。

* 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

* 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

* 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは【プログラムの追加と削除】からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で【プログラムの追加と削除】を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 【コントロールパネル】を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 【プログラムの追加】 ボタン () をクリックする
- 4 【CDまたはフロッピー】 ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

➡ 参照 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 224
 - 2 東芝HWセットアップを使う 225

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝コントロール」などがあります。

 「東芝省電力ユーティリティ」について「5 章 2 省電力の設定をする」

 「東芝コントロール」について
「1 章 3-④ 東芝コントロールで設定する」

本章では、「東芝 HW セットアップ」について説明します。

2 東芝HWセットアップを使う

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。

パスワード、OSの起動、LAN機能などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝HWセットアップの起動と使用

「東芝HWセットアップ」の操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

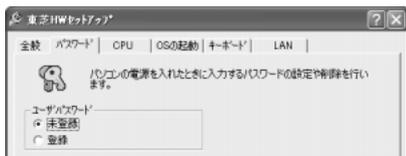
このボタンをクリックすると、「東芝HWセットアップ」の[パスワード]タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝HWセットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・ 全角文字 (2バイト文字)・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など・ 単独のキーで入力できない (入力するときに [Shift] キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など・ ¥ (エン) [¥] キーや [⇧] キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

手順②でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

【キーフロッピーディスクの作成】

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。キーフロッピーディスクを使用すると、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD(1.44MB)フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

▶ 参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 フロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能なフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

モードパネルに「Password =」と表示されます。

4 パスワードを入力する

5 (Tab)キーを押す

モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。

Insert FD

Ready (Y/N)

6 (Y)キーを押す

モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。



7 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押す

画面にメッセージが表示され、Windows が起動します。

【パスワードを忘れてしまった場合】

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。また、そのとき身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password =」 と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、(Enter) キーを押す
パスワードが解除され、システムが起動します。

■ [CPU] タブ ■

CPU の操作について設定します。



【CPU周波数の設定】

CPU周波数を、「ダイナミック切替モード」、「常時高速モード」、「常時標準モード」のいずれかから選択できます。

■ [OSの起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

[CD-ROM] は内蔵の DVD-RAM ドライブをさします。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

起動するハードディスクの順番を選択します。

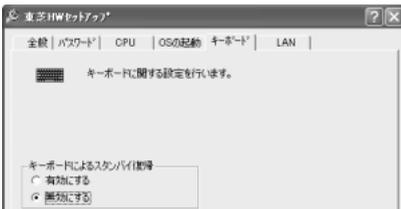
[増設 HDD] はマルチスタイルベイに取り付けた 60GB ハードディスクユニット (別売り) をさします。市販の外付型ハードディスクドライブからの起動はサポートしていません。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークを使ってリモートブートする際のプロトコルを選択します。

■ [キーボード] タブ ■

スタンバイ状態からの復帰方法について設定します。



【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LANのウェイクアップ 】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【 内蔵LAN 】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

付録

本製品について、外形や各インターフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 232
 - 2 各インターフェースの仕様 243
 - 3 技術基準適合について 247
 - 4 無線LANについて 259
 - 5 Bluetoothについて 266

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		DynaBook G7シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	標準グラフィックス用装備 (32MB)
表示機能	表示装置	15.0型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	UXGAモデル：横1600 x 縦1200 1画面 SXGA+モデル：横1400 x 縦1050 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵 (ジョグホイール付き)
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	DVDマルチドライブ	1台内蔵 CD-ROM : 最大24倍速 CD-R 書き込み : 最大16倍速 読み出し : 最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え : 最大4倍速 読み出し : 最大12倍速 High-Speed対応CD-RW 書き換え : 最大8倍速 読み出し : 最大12倍速 DVD-ROM : 最大8倍速 DVD-R 書き込み : 等倍速 読み出し : 最大4倍速 DVD-RW 書き換え : 等倍速 読み出し : 最大4倍速 DVD-RAM 書き換え : 2倍速 読み出し : 最大2倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション
	3.5型フロッピーディスクドライブ	外付けUSB接続 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 *1 1.44MB、1.2MB (2HD) / 720KB (2DD)
マルチスタイルベイ *2		1個装備
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	3個装備 USB 1.1 / 2.0対応
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応

インタフェース	サウンド	ライン出力（ビデオ出力共用） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック）*3 ライン入力 ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） マイク入力（モノラル） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） 光デジタルオーディオ出力（S/PDIF） ／ヘッドホン出力（ステレオ）共用 ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） 内蔵スピーカ（ステレオ）装備 内蔵マイク装備
	ビデオ出力*3	ビデオ出力（ライン出力共用） 1個装備（φ3.5mmミニジャック）
通信機能	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	モデム	1個装備 データ：最大56kbps（V.90対応、ボイスレス、 世界58地域対応） FAX：最大14.4kbps
	無線LAN*4	1個装備 IEEE802.11b準拠（11Mbpsまで対応）
	Bluetooth	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠
	赤外線	1ポート装備 IrDA1.1準拠 リモコン
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V～240V（50Hz、または60Hz） ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/6,300mAh
最大消費電力		75W
使用環境条件		温度：5～35℃ 湿度：20～80%Rh
外形寸法（突起部除く）		334（幅）x 305.8（奥行）x 38.2／55.2（高さ）mm
質量		約3.6kg（ウェイトセーブ取り付け時）

* 1 フォーマットできるのは、2HD（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。

* 2 別売りのマルチスタイルベイ機器をいずれか1つ取り付けて使用できます。

* 3 同梱のビデオケーブルを使用してください。

* 4 無線LANモデルのみ

【 東芝 PC 診断ツール 】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

表示される内容は、「東芝 PC 診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、「東芝 PC 診断ツール」を起動し直すと変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【 電源コードの仕様 】

本製品に同梱されている電源コードは、日本（100V）、アメリカ合衆国・カナダ（125V）の法令・安全基準に適合しています。その他の国・地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

日本では必ず AC100V のコンセントで使用してください。

*取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

【 AC アダプタの仕様 】

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

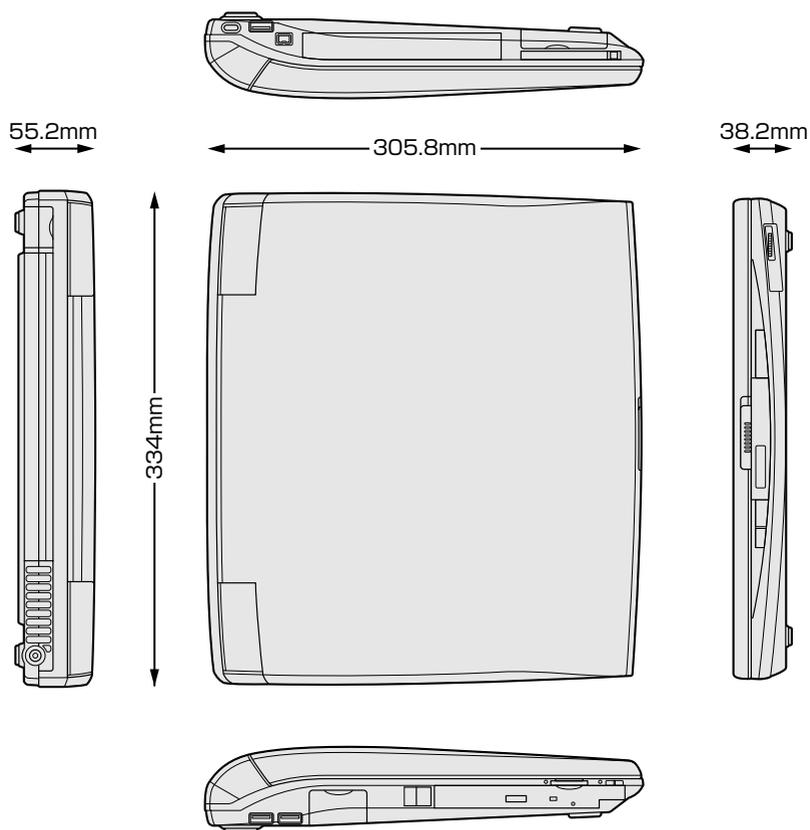
AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz

出力：15V、5A

2 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 6-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

【UXGA (1600 × 1200) モデルの場合】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 × 25字	8 × 8	16/256K	70
2,3		80 × 25字	8 × 8	16/256K	
0*,1*		40 × 25字	8 × 14	16/256K	
2*,3*		80 × 25字	8 × 14	16/256K	
0+,1+		40 × 25字	8(9) × 16	16/256K	
2+,3+		80 × 25字	8(9) × 16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320 × 200ドット	8 × 8	4/256K	
6		640 × 200ドット	8 × 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 × 25字	8(9) × 14	モノクロ	
7+		80 × 25字	8(9) × 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 × 200ドット	8 × 8	16/256K	60
E		640 × 200ドット	8 × 8	16/256K	
F		640 × 350ドット	8 × 14	モノクロ	
10		640 × 350ドット	8 × 14	16/256K	
11		640 × 480ドット	8 × 16	2/256K	
12		640 × 480ドット	8 × 16	16/256K	
13		320 × 200ドット	8 × 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRT リフレッシュレート	
-	SVGA グラフィックス	800 x 600	-	256/256K	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1600 x 1200	-			
-		1920 x 1440 *1	-			60/75/85
-		2048 x 1536 *1	-			60
-		800 x 600	-	64K/64K	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1600 x 1200	-			
-		1920 x 1440 *1	-			60/75/85
-		2048 x 1536 *1	-			60
-		800 x 600	-	16M/16M	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1600 x 1200	-			
-		1920 x 1440 *1	-			60/75
-		2048 x 1536 *1	-			60

*1) 内部液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面（1600×1200）内に、仮想スクリーン表示します。

注) 一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

【 SXGA + (1400 × 1050) モデルの場合 】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 × 25字	8 × 8	16/256K	70
2,3		80 × 25字	8 × 8	16/256K	
0*,1*		40 × 25字	8 × 14	16/256K	
2*,3*		80 × 25字	8 × 14	16/256K	
0+,1+		40 × 25字	8(9) × 16	16/256K	
2+,3+		80 × 25字	8(9) × 16	16/256K	
4,5	VGA	320 × 200ドット	8 × 8	4/256K	70
6	グラフィックス	640 × 200ドット	8 × 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 × 25字	8(9) × 14	モノクロ	60
7+		80 × 25字	8(9) × 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 × 200ドット	8 × 8	16/256K	70
E		640 × 200ドット	8 × 8	16/256K	
F		640 × 350ドット	8 × 14	モノクロ	
10		640 × 350ドット	8 × 14	16/256K	
11		640 × 480ドット	8 × 16	2/256K	
12		640 × 480ドット	8 × 16	16/256K	
13		320 × 200ドット	8 × 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRT リフレッシュレート	
-	SVGA グラフィックス	800 x 600	-	256/256K	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1400 x 1050	-			
-		1600 x 1200* ¹	-			
-		1920 x 1440* ¹	-			60/75/85
-		2048 x 1536* ¹	-			60/75
-		800 x 600	-	64K/64K	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1400 x 1050	-			
-		1600 x 1200* ¹	-			
-		1920 x 1440* ¹	-			60/75/85
-		2048 x 1536* ¹	-			60/75
-		800 x 600	-	16M/16M	60/75/85/100	
-		1024 x 768	-			
-		1280 x 1024	-			
-		1400 x 1050	-			
-		1600 x 1200* ¹	-			
-		1920 x 1440* ¹	-			60/75
-		2048 x 1536* ¹	-			

* 1) 内部液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面（1400 × 1050）内に、仮想スクリーン表示します。

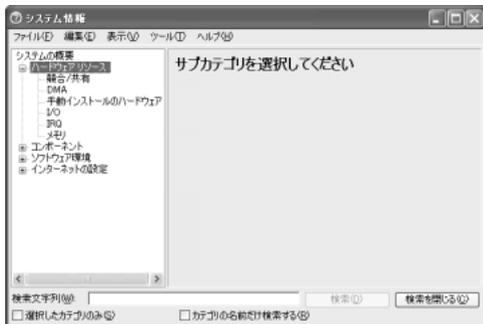
注) 一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどのおそれがありますのでモデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。
電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。

お願い

- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格 (PTT) ラベルの確認以外の目的で内蔵モデムカバーを開けないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。故障の原因になります。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ モデムカバーのネジ 1 本を取りはずす
- ⑤ モデムカバーをはずす
- ⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける
- ⑦ モデムボードを固定用の 2 本のネジでパソコン本体に取り付ける
- ⑧ モデムカバーをはめ、手順④ではずしたネジ 1 本でとめる
- ⑨ バッテリーパックを取り付ける

【 取りはずし 】

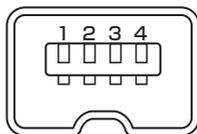
- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ モデムカバーのネジ 1 本を取りはずす
モデムカバーをはずします。
規格（PTT）ラベルを確認することができます。
- ⑤ モデムボードを固定しているネジ 2 本を取りはずす
ネジはなくさないように大切に保管しておいてください。
- ⑥ モデムボードをパソコン本体から取りはずす
- ⑦ 接続コードをモデムボードから取りはずす
- ⑧ モデムカバーをはめ、手順④ではずしたネジ 1 本でとめる

2 各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	

コネクタ図

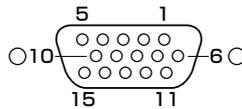


信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	

コネクタ図



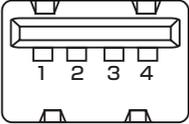
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（1）：パソコン本体への入力
 信号方向（0）：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図

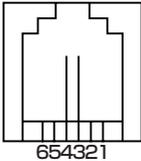


信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図

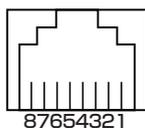


信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (1)：パソコン本体への入力
信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook G7 series

Model number : PS520

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, IEEE1394 port, and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS520* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003 年 1 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 DVD-RAM ドライブ UJ-810B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

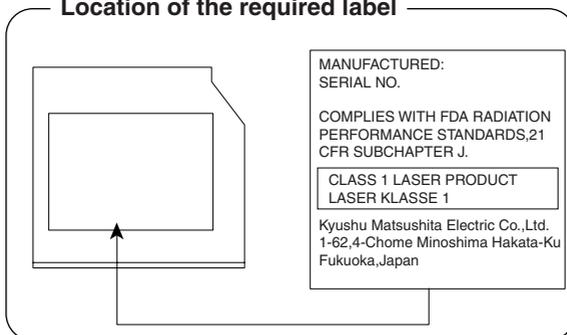
VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



4 無線 LAN について

*無線 LAN モデルのみ

1 物理仕様

パワーセーブ（ドーズ）モード	45mA
受信モード	250mA
送信モード	350mA
供給電源	3.3V

2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)			
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High、Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)			
拡散方式	11チップバーカーシーケンス			
ビットエラーレート (BER)	10 ⁻⁵ 以上			
定格出力	15 dBm			
転送レート	High Speed 11 Mb/s	Medium Speed 5.5 Mb/s	Standard Speed 2 Mb/s	Low Speed 1 Mb/s
受信感度	-83 dBm	-87 dBm	-91 dBm	-94 dBm
拡散遅延 (FER 1%未満)	65 ns	225 ns	400 ns	500 ns

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャンネルセット 】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

* 1 : 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN のチャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- " ピア・ツー・ピア " モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

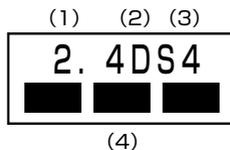
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：MPCI3A-20/R

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1128JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1088

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers(米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B) (無線 LAN 標準規格(版数 B))
- WECA (Wireless Ethernet Compatibility Alliance) の定義する Wireless Fidelity (WiFi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Wireless LAN 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

東芝 Wireless LAN 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248H-DPA3171U

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

- EN 60950 Safety of Information Technology equipment
- ETS 300 328 Technical requirements for radio equipment
- ETS 300 826 General EMC requirements for radio equipment.

België/ Belgique:	For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
----------------------	--

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA. The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

● Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

5 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力 *1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 *1	-70dBm
	通信距離	見通し10m *2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節5 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

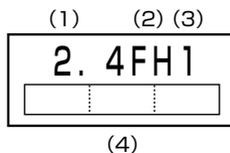
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
- (4) : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認定表示について

本製品は、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2SSBX

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1058JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1071

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

〈ご注意〉

- 本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248104465A

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

記号

 キーを使ったショートカットキー ... 39

A

AC アダプタの仕様 21
Alt キー 34, 35
Arrow Mode LED 35, 36

B

BackSpace キー 35
Battery LED 23, 199
Bluetooth Manager 136
Bluetooth Service Center 138
Bluetooth SIG 134
Bluetooth 機能を使う 133
Bluetooth 東芝ユーティリティ .. 135
Bluetooth について 266

C

Caps Lock LED 34, 36
Caps Lock 英数キー 34
CD/DVD 再生アイコン 24
CD の取り扱い 68
CRT ディスプレイを接続する 180
Ctrl キー 34, 35

D

DC IN LED 23
Del キー 35
DMA 使用リソース 240
Drag'n Drop CD 89
DVD-MovieAlbum 106
DVD-RAM Driver Software 64
DVD-Video を観る 96
DVDfunSTUDIO 106
DVD の取り扱い 68

E

Enter キー 35
Esc キー 34

F

FDD LED 164
Fn キー 34
Fn キーを使った特殊機能キー 37

H

HDD/CD-ROM LED 23

I

i.LINK インタフェース 243
i.LINK コネクタ 20
i.LINK 対応機器の取り付け 182
i.LINK 対応機器の取りはずし 182
i.LINK 対応機器を接続する 181
i.LINK によるネットワーク接続 .. 182
I/O ポートマップ 240
IEEE 1394 インタフェース 243
IEEE 1394 コネクタ 20
IEEE 1394 対応機器の取り付け
..... 182
IEEE 1394 対応機器の取りはずし
..... 182
IEEE 1394 対応機器を接続する
..... 181
Ins キー 35
InterVideo WinDVD 96
IRQ 使用リソース 240

L

LAN インタフェース 246
LAN 機能 118
LAN ケーブルの接続 118

LAN コネクタ	20
LAN コネクタに関するインジケータ	119
LAN へ接続する	118
LINE IN 端子	20
LINE IN 端子への接続	189
LINE OUT 端子	20
LINE OUT 端子への接続	188

M

MotionDV STUDIO	106
MS-DOS の起動ディスクを作成する	167

N

Numeric Mode LED	35, 36
------------------------	--------

P

Pause キー	35
PC カードスロット	20
PC カードの取り付け	171
PC カードの取りはずし	171
PC カードを接続する	170
Power LED	23
PrtSc キー	35

R

RGB インタフェース	244
RGB コネクタ	18

S

SD Card LED	69
SDMI	69
SD メモリカード	69
SD メモリカードスロット	18, 69
SD メモリカードのセット	70

SD メモリカードの取り扱い	72
SD メモリカードの取り出し	70
Shift キー	34, 35
Space キー	34

T

Tab キー	34
Tab ボタン (リモコン)	77
TFT 方式カラー液晶ディスプレイ	49
TV アプリケーションボタン (リモコン)	76
TV 出力切替ボタン	19

U

USB インタフェース	245
USB コネクタ	18, 20
USB 対応機器の取り付け	173
USB 対応機器の取りはずし	174
USB 対応機器を接続する	173

W

WEP 機能を設定する	126
Windows Media Player	80, 86
Windows のネットワーク設定	119

ア

アプリケーションキー	35
アプリケーション起動アイコン	24
アプリケーションを削除する	221
アプリケーションを追加する	220
アプリケーションを使う前に	218
アロー状態	36
アンインストーラ	221
アンインストール	221

イ

イジェクトボタン（フロッピー ディスクドライブ）	164
インスタントセキュリティ機能	37
インストール	220
インターネットボタン	19
インタフェース	158
インフラストラクチャネットワーク	122

ウ

ウィンドウズキー	34
ウィンドウの色を変える	53

エ

映像を編集する	106
液晶ディスプレイの取り扱い	54

オ

オーディオ／アプリケーションボタン	19, 26, 82, 85, 97
オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能	27
オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能アイコン	24
オーディオ機器	188
オーディオデジタル再生アイコン ..	24
オートスクロール	48
オーバーレイキー	35
大文字ロック状態	36
オリジナルMDを作る	95
オリジナル 音楽CDを作る	89
音楽CDを聴く	80
音楽ファイルを聴く	85
音量ボタン（リモコン）	76

カ

海外でインターネットに接続する	153
外形寸法図	235
回線切換器	153
解像度を変更する	53
書き込み可能状態（SDメモ리카ード）	71
書き込み可能状態（フロッピーディスク）	166
書き込み禁止状態（SDメモ리카ード）	71
書き込み禁止状態（フロッピーディスク）	166
各部の名前	18
カタカナ／ひらがなキー	35
カテゴリ	118
壁紙を変える	51

キ

キーシフトインジケータ	36
キーフロッピーディスクの作成 ...	227
キーボード	18
キーボード図	34
キーボードの取り扱い	40
逆送りボタン（リモコン）	77
休止状態	210, 214

ク

クイックフォーマット	167
クリック	42

ケ

決定ボタン（リモコン）	76
-------------------	----

サ

再生／一時停止ボタン (リモコン) 77
 最大化ボタン (リモコン) 77
 サウンド機能 56
 先送りボタン (リモコン) 77

シ

システムインジケータ 19, 23
 システム環境の変更 224
 周辺機器について 158
 出力切替ボタン (リモコン) 76
 使用できる CD 59
 使用できる DVD 61
 使用できるフロッピーディスク ... 165
 使用できるメディアと
 対応するアプリケーション 63
 省電力モード 207
 省電力モードの削除 207
 省電力モードの作成 207
 ジョグホイール 18
 シンクロ録音機能 185
 新着メールチェック機能 144

ス

数字ロック状態 36
 スクリーンセーバを使う 52
 スタンバイ 210, 212
 スピーカ 18

セ

静電気について 191
 製品仕様 232
 赤外線ポート 18
 セキュリティロック 78

セキュリティロック・スロット 20

ソ

増設メモリスロット 21
 増設メモリの取り付け 192
 増設メモリの取りはずし 194

タ

タスク切替ボタン (リモコン) 77
 タスクバーに CPU 周波数の状態を
 表示する 208
 タスクバーに省電力モードの状態を
 表示する 208
 タッチパッド 18, 41
 タッピング 42
 ダブルクリック 42

ツ

通風孔 20

テ

停止ボタン (リモコン) 77
 デザリング表示 50
 ディスプレイ 18, 49
 ディスプレイ開閉ラッチ 18
 デジカメ Walker 103
 デジタルカメラの写真を編集 / 整理する
 103
 デスクトップのテーマを変える 51
 テレビに表示する 175
 テレビを接続する 175
 電源コードの仕様 21
 電源コードの取り扱い 22
 電源コネクタ 20
 電源スイッチ 18
 電源ボタン (リモコン) 76

電池の取り付け (リモコン)	75
電池の取りはずし (リモコン)	75

ト

東芝 HW セットアップ	225
東芝コントロール	28
東芝省電力ユーティリティ	206
特殊機能キー	40
時計用バッテリー	201
ドライバをインストールする	159
ドライブ	18, 59
ドラッグアンドドロップ	42

ナ

内蔵マイク	18
内蔵モデム	153
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	153

ネ

ネットワークデバイススイッチ ...	130
--------------------	-----

ハ

ハードウェアリソースについて ...	240
ハードディスクドライブ	55
パスワードの削除	227
パスワードの登録	226
パスワードを忘れてしまった場合	228
パソコン本体の取り扱い	22
バックライト用蛍光管	54
バッテリー駆動での使用時間	202
バッテリー残量アイコン	24, 200
バッテリー充電完了までの時間	201
バッテリー充電量を確認する	199
バッテリーの充電方法	202
バッテリーの充電保持時間	203

バッテリーパック	21, 198
バッテリーパックの交換方法	204
バッテリー・リリースラッチ	21
バッテリーを節約する	204
バッテリーを長持ちさせるには	203
パネルスイッチ機能	216
早送りボタン (リモコン)	77
早戻しボタン (リモコン)	77
半/全キー	34

ヒ

ピア・ツー・ピアワークグループ	122
光デジタルオーディオ出力端子	20
光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	183
光デジタル対応機器の取り付け ...	184
光デジタル対応機器の取りはずし	184
光デジタル対応機器への録音	184
ピクセル	50
左ボタン	18
ビデオケーブルの取り付け	175
ビデオケーブルの取りはずし	179
ビデオ出力端子	20
ビデオモード	236
表示可能色数	49

フ

ファイルシステム	65
ファンクションキー	34
フォーマット (DVD-RAM)	65
フォーマット (SD メモリカード)	72
フォーマット (フロッピーディスク)	166

プラグアンドプレイ	159
フロッピーディスクドライブ	164
フロッピーディスクドライブの手入れ	169
フロッピーディスクの取り扱い ...	169
分岐アダプタ	153

へ

ヘッドホン	187
ヘッドホン出力端子	20, 188
ヘッドホンの接続	188
変換キー	35
編集した映像を書き込む	110

ほ

ホットインサージョン	170
ボリュームダイヤル	18, 56
本製品の仕様	232

ま

マイク入力端子	20, 187
マイクロホン	186
マイクロホンの接続	187
マウスのプロパティ	41
マスタ音量	56
マルチスタイルベイ	20
マルチスタイルベイ LED	23
マルチスタイルベイ機器のロック	162
マルチスタイルベイ機器を差し替える	160
マルチスタイルベイ・リリースラッチ	21
マルチスタイルベイロック	21
マルチスタイルベイロック解除	21

み

右ボタン	18
ミュートボタン (リモコン)	76

む

無線 LAN	120
無線 LAN について	259
無線 LAN の種類	121
無線 LAN を使う	128
無変換キー	34

め

メール着信情報を消す	151
メールボタン	19
メニューボタン (リモコン)	77
メモリマップ	240
メモリ容量の確認	195
メモリを増設する	190

も

モード切替ボタン	19
モード切替ボタン (リモコン)	77
モードパネル	19, 24
モードパネルに表示されるアイコン	24
モードパネルの設定	148
モードパネルの表示	25
モジュージャック	20
モデムインタフェース	245

や

矢印キー	35
矢印ボタン (リモコン)	76

ラ

ライトプロテクトタブ (SDメモ리카ード)	71
ライトプロテクトタブ (フロッピーディスク)	166

リ

リモコン	73
リモコンの取り扱い	77
リリース情報	10

ロ

録音レベルの調整	57
----------------	----

ワ

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	18
ワンタッチボタン	26